

パイプオルガン レクチャーコンサート シリーズ 2017

in
聖徳大学

レクチャーコンサート2017は、3人のオルガニストがそれぞれの切り口でJ.S.バッハを取り上げます。バッハの音楽の様々な魅力をオルガンという楽器の多彩さと共に楽しんでいただきたいと思います。



5月20日(土) 13:00~14:20

「M.ルターとJ.S.バッハ」

松居 直美 (聖徳大学音楽学部教授)

J. S. バッハ : 神は我がやぐら BWV720

キリストは死の縄目につながれたり BWV718

J. J. フローベルガー : 聖体拝領のためのトッカータ FbWV106 他

6月3日(土) 13:00~14:20

「バッハとフランスのオルガン音楽」

久野 将健 (京都ノートルダム女子大学准教授)

N. de グリニー : 賛歌「来たれ創り主なる聖霊よ」

J. S. バッハ : 幻想曲ト長調(ピエスドルグ) BWV572

C. トウルヌミール : エヴオカトリス組曲 他



6月24日(土) 13:00~14:20

「ゴルトベルク変奏曲をオルガンで vol.2」

浅井 寛子 (聖徳大学音楽学部講師)

J. S. バッハ : アリアと種々の変奏(ゴルトベルク変奏曲) BWV988 より

申込み・問合せ (詳しい案内は裏面へ)

聖徳大学生涯学習課 ☎047-365-3601

～演奏とお話～

5月20日(土) 松居 直美
「M.ルターとJ.S.バッハ」

今年にはM.ルターの宗教改革500年の記念の年です。このヨーロッパ世界を大きくゆさぶった出来事は、音楽世界にも多大な影響を与えました。時代を映す多彩な新しい音楽が試みられ、それらの遺産はバッハの音楽の中で「完成」します。

6月3日(土) 久野 将健
「バッハとフランスのオルガン音楽」

フランス古典期のオルガン音楽はバッハに大きな影響を与えました。その一人、グリニーの作品とバッハのフランス風作品を通して、どのような影響が見られるかを考えたいと思います。最後にはフランス近代の作曲家トゥルヌミールの珍しいフランス古典風の作品をお楽しみいただきます。

6月24日(土) 浅井 寛子
「ゴルトベルク変奏曲をオルガンで vol.2」

昨年はゴルトベルク変奏曲の概要をお話しし、その構成上重要な軸となっているカノンに焦点を当てました。今回はそれに続く第2弾で、オルガンで演奏する際の音色とアレンジ、表現方法の違いについて考えていきます。チェンバロやピアノとは全く異なる世界をお楽しみください。

受講料：各回 1,050円（セットでの申込みもOK）

※当日料金1,100円

時間：13:00～14:20

場所：聖徳大学キャンパス内 川並香順記念講堂

■会場までの行き方

松戸駅から徒歩5分！
松戸駅東口を出てまっすぐ進み、イトーヨーカドー内のエスカレーターを利用して5階へ。出口からキャンパスはすぐです。
※車でのお越しはご遠慮ください。

申込み・問合せ
聖徳大学生涯学習課
☎047-365-3601

